

二〇二二年五月三日（箕面公園参加者一七人）

夏木立重なり会ふて日の斑	わかば
水音の絶えぬ奈落や夏木立	"
盤石の苔を結びて滴れる	"
万緑の奈落に谿の楽響く	"
ふところに古刹を鎮め椎若葉	うつぎ
激つ瀬の大岩洗ふ涼しさよ	"
口閉じてより岩と化す山椒魚	"
行く程に溪狭まりて河鹿笛	"
せせらぎへなだれて幾重若楓	菜々
滝の道洩れ日の葉紋踏みりけり	"
みのお道昼を灯して川床料理	"
窓といふ窓に若葉やコーヒー館	"
滝川にはしやく素足の女学生	きづな
替はり合ひ滝しぶき受く園児どち	"
滝道に踏み行く千千の枝の影	"
勤勉の碑に佇めば樹下涼し	有香
磊々を好みて遊ぶ川とんぼ	"
大滝の落つるにまよひなかりけり	こすもす

大滝の落下の音の潔し	"
滝の道奈落に響く瀬音かな	せいじ
滝の上に立ち上がりたる飛行雲	"
川風に吹きあがりたる糸とんぼ	よう子
箕面道一目千本若楓	"
緑陰にはみ出すフリーマーケット	満天
行厨の吾らに滝のしぶきけり	"
大滝の裳裾ひろげて落ちにけり	宏虎
木漏れ日を踏みて分け入る滝の道	ぼんこ
瀬の楽の右に左に滝の道	ひかり
人力車帆に若楓影ゆらぐ	小袖
川底にゆらぐ波紋は若葉影	よし子
滝音の間遠となりて鳥語降る	はく子
岩の先真珠つなぎに滴れる	"

吟行句会みの選

二〇二二年五月三日（箕面公園参加者一七人）